

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要(事業所記入)】			
事業所番号	4471300105		
法人名	医療法人 大分厚生会		
事業所名	グループホーム川崎(Ⅱ)		
所在地	大分県由布市狭間町古野254番地の3		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	令和6年5月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号
訪問調査日	令和6年3月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1. 自然に恵まれている場所にあり、当施設の居室より、由布・鶴見岳等の美しい景色が見られます。
2. 併設診療所並びに近隣には大学病院があり、医療施設は充実しております。 3. 行事や日々のレクを行ったり、現在感染症対策にて自粛しておりますが、他部署での行事参加・交流など、少しでも充実した生活を送れるよう心掛けております。 4. 当地域での交流会などの参加並びに散歩・外出時は当地域住民との挨拶・交流を心掛けております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1)隣接する法人の医療機関との連携がとれており、家族、職員の安心につながっている。
2)職員も地域の役員をしており連携がとりやすく、地域との交流ができている。
3)法人の研修体制が整っており、職員の資質向上とともに勤続年数も長く、職員間のコミュニケーションがとれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者一人一人の個性・性格を尊重し、家庭的で充実した生活を送れるよう日々努力しております。それと共に地域と共に成長できる施設を目指していきたいと考えております。	「地域に密着して元気に明るく過ごしましょう」という理念を掲げ、コロナ禍で制約のある中、区長とも話し合いながら少しずつ地域との交流を深めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	当施設は当該地域の自治会に加入しており、自治会の行事等へできる限り参加しております。今後自治会とは、運営会議を通じ情報交換をし、交流を深めていきたいと考えております。	事業所は地域の自治会に入会しており、行事にはできる限り参加している。また、法人内の相談員が区長代理、職員の家族が区長をしているので、地域の情報が取り入れやすく、地域との交流ができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営会議を通じて入居者家族や自治会役員・自治委員等に参加の働きかけをし、各地域の高齢者家族の現状等の情報を収集し、その内容を検討し可能なものは当施設に実践・還元をしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在、2ヶ月に1度の開催にて、外部の参加者も多く参加頂いております。参加困難な場合は、後日FAX通信などで会議内容をお知らせしご意見を伺っております。	現在は2か月に1度 事業所内で開催できている。外部の委員が3名と行政職員などが参加して開催している。家族への便りに利用者の日常の写真を入れる提案や、事故報告書について市の様式に合わせるなどの意見をいただき、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に、市の担当者と連絡等をし、運営上の悩みから、小さなことまで、ご相談をし、アドバイスを頂いております。	市の職員は必ず運営推進会議に出席しており、運営上の悩みやコロナ禍での困りごとなどを相談しアドバイスをもらったりと協力関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行うことなく出来る限り自由かつ安全に生活が出来るよう心掛けております。同時に同法人の定期的な会議に参加し、その後各職員に情報共有をし身体拘束のない生活に取り組んでいます。	年に1～2回 法人内の研修に参加し、全職員に回覧して共有している。スピーチロックは特に注意しながら、できる限り自由に、安全に生活できるよう支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常時入居者に対して、身体・精神的な虐待が無いよう対応に努めて参ります。その件に関しても研修などに参加し、職員間の情報の共有に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現時点での事例はないが、内部研修などで認識を深め、必要な場合はいつでも対応・支援が出来るような体制になっております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時から契約まで丁寧な説明を併設相談員を交えて対応し、個々に合わせた対応を心掛けております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	昨年7月頃より面会制限を緩和し対応しております。その中で、外部より、ご意見等をお伺いし、重要なご意見等がありましたら、改めて関係者と話し合いをし対応できる体制であります。面会困難な方に対しては、定期的な連絡等をし対応しております。	家族とのコミュニケーションを大切にし、面会時や電話、ケースによっては手紙などで意見を聴いている。2か月に1回、利用者の日常の様子を手紙に写真を添えて報告している。出された意見は職員会で話し合い、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現在各種会議は感染状況に応じて徐々に再開して行っており、重要な情報等は各部署持ち帰り、情報共有に努めております。その中で、重要意見等あれば、各関係者と協議し、改めて会議等を設け対応しております。	月に1回 法人で小委員会があり、管理者が出席し、給与面や休暇の増加など意見を出しており、職員の要求でエアコンや洗濯機の買い替えが行われた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人全体会議にて職員の就業環境等の意見があれば、協議の場を設け対応しております。(理事長)		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規採用時については、法人での研修が実施され段階に応じた研修を行っております。他の職員については、月1回の内部研修報告等で情報を共有しつつ課題についてのトレーニングを行っております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣同業者等との交流を積極的に行い、サービスの質の向上に努めている。また、勉強会等への案内も職員に周知しサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当ケアマネなどからの情報以外にも改めてご家族様や利用者本人から情報を得るよう努めております。また、入居時に不安・疑問等あれば、都度協議の場を設け、不安・疑問が少しでも取り除ける様相談員と協力し、快く生活が出来るよう努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人・家族の依頼・施設見学を経て納得のいく入居運びとなっております。また、当法人・GHの取り組み内容を説明し、入居者・家族様の不安・要望を聞きつつ発展的な信頼関係を築ける様心掛けております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時の内容から、ニーズを抽出し、問題点や不安・悩みを聞き出し、問題軽減に努めている。また、今後のサービス内容についても、その都度本人・家族様に相談し対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人一人の性格・個性を重要視し、人生の先輩であることを忘れず、常時対応に努めております。同時に入居者・職員が互いに尊重しあいながら、少しでも充実した生活が出来るよう支援しております。また、日常において入居者の新たな発見があればさりげない支援にも取り組んでおります。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時や電話・定期的にお手紙にて利用者様の現状報告をしともに支援していく関係を築いております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様の家族・友人等の面会も多く、好評です。また、入居者様より、家族・友人等への連絡等を希望した場合、電話・手紙などで支援できるように努めております。	面会を緩和し、家族および友人も居室での面会を実施している。また、手紙を書きたい、電話を掛けたい人への支援を含め、馴染みの場所に出かけたり、馴染みの関係を維持する支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格や過去の生活歴を把握し、施設内で入居者同士が気軽に話せるよう職員が支援したりレク・交流場を設けるなどを計画し支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もご家族様には家庭内の介護についての悩み・相談があれば当施設や当法人内の相談員にご連絡くださいとお話しし、継続的な関係が続くよう努めております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に本人・家族からお話を聞いたり、交流を図りながら両方の思い・意向の把握に努め、それをもとにフェイスシート等に記入し対応の参考にしております。また、利用者の把握が困難な場合は、日頃の支援等を含め表情や反応で探り対応に努めております。	「私の気持ちシート」を作成し、サービス開始時から今までの心身の情報、日常の中で得た情報などを記録に残し、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際に、利用者様やご家族様より、過去の生活歴・生活環境、趣味などを聞き、本人に合った生活が送れるよう支援・援助に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の記録や申し送りなどにて各入居者の把握に努めており、それを基に各入居者の状態を見ながら、対応に努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なモニタリングやカンファレンス等を基に利用者・家族・職員の意見・意向などを取り入れそれを基に介護計画を作成し、職員間で共有し対応に努めている。	担当職員とケアマネジャーが6か月ごとにモニタリングをする。サービス担当者会議を開催し、介護計画を作成している。家族には月1回、利用料の支払い時などに計画書を見てもらい、意見を聴いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	常時記録に入居者の1日の変化や介護計画に沿った実施記録を記入している。また、その情報を共有し、計画の見直し等に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内には複数の施設があり、各事業所と連携を図り、入居者支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	当法人は古野自治区との親交があり、防災協定を結んだり、多くの行事に参加しながら地域との関係を深めるよう努めている。また、当地域の消防・警察などとも協力関係を築いており、特に消防とは、定期的な防災訓練などにて協力関係を築いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人の母体である川崎内科が担当し、定期往診や急患等に対応をし、利用者・家族様の信頼を得ている。また、入居前に通院などしていた他医療機関や専門医の受診を希望した場合、当院医師と相談の上柔軟な対応を行っております。	入居時に話し合いを行い、入居者全員が法人母体の川崎内科をかかりつけ医としている。月2回の訪問診療や往診が受けられ、家族の安心につながっている。他科受診は家族の対応になっているが、歯科には訪問診療があり、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当GHIは医療法人運営の為、併設内科看護婦が利用者の健康管理等を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携医療機関との連携については当法人が内科を運営しており迅速な対応が可能である。また、入院先の他医療機関の主治医・看護婦との連絡や申し送りなどの連携については密に丁寧に対応を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前に説明は行いが、病状悪化時や、終末期には改めてご家族様と、医師・看護師・相談員を交え今後の方向性等の協議を行っている。また、該当利用者の状態を常時把握・支援を行い、内科医師・看護婦と密に連携し対応に努めている。	重度化及び終末期の方針は入居時に説明しているが、状態変化に応じて家族と話し合いを行っている。かかりつけ医が隣接する法人の医師なので、早い段階から密な連携がとれている。希望があれば看取りも行う方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時・事故発生時等の備えとして当法人のマニュアルを常時しており、内部研修や実践を通じ随時対応ができるように努めている。また、各部署とも協力・支援できる体制が整っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	古野自治区との防災協定を結んでおり、災害時には協力も得られるようになっている。また、消防の協力の下、避難訓練等も当法人で定期的に行い速やかな避難ができるよう努めている。食事備蓄については当法人と併設厨房と契約している会社と協定を結んでおり、災害時などはすぐに支援できる体制が整っている。	古野自治区との消防防災活動応援協定による災害時の協力体制が整っている。2月には、夜間の避難訓練や地震への対応について消防署と確認を行った。また、事業所独自で年2回、避難訓練を行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は全入居者を状況を把握しつつ常にプライバシーに配慮・注意し対応をしている。また、個人情報についての研修もそうだが、常時外部に漏らさぬよう全職員注意し対応している。	定期的に法人内で研修があり、受講後もスタッフ全員で共有し周知徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者個々の性格に合わせた対応に努め、自我が難しい利用者に対してはご家族様や外部等の協力にて対応をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各自全体的なリズムはあるが、各入居者のその日の気分や体調により、自室で過ごしたり、レクなどを行う等、本人の希望に合わせた対応に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	常時の身だしなみは職員がサポートしているが、理美容は、定期的に外部業者が訪問してくれている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事中は常時快く食事ができるよう心掛け対応をし、各入居者の好き嫌いや嚥下状態を把握し、都度併設栄養士と連携し支援している。また、食事準備や跡かたづけについては入居者の状況に合わせて対応している。	主食とみそ汁は事業所内で作り、副食は法人の厨房より運んでくる。希望があれば法人の栄養士に相談したり家族に伝える。時々おやつ作りを楽しんだりして、食事が楽しい時間になるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の1日の栄養・水分摂取量などをもとに当法人の栄養士が献立を作成し、都度利用者の好みや希望を入れつつ対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の習慣や有する力を考慮し、その力を生かしながらケアを行い、できない人には介助等を行っている。また、月1回の口腔ケア研修に参加し今後のケアに活かせるところは活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各利用者の排泄パターンを職員間で共有・把握し、それぞれに合った対応を行っている。また、常時入居者のプライバシーに注意し対応に努めている。	全員が自室のトイレおよびポータブルトイレを利用している。個々の排泄パターンを把握し、声掛け、誘導、介助を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便チェックを行い、個々の生活に合わせた対応を行っている。また、排便困難の方については併設医師と相談し、内服薬等で対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	常時利用者の要望に応じて入浴等を行っている。他にも汚染状況に応じて入浴など柔軟な対応を行っている。また、当日の体調や気分に応じて全身清拭に変更したりして常時清潔保持に注意している。	週2回の入浴を基本としているが、希望があれば毎日入浴も可能であり、週3～4回入浴する利用者もいる。嫌がる人は日にちや時間、介護者を変えたりベッドバスにしたり入浴剤を利用したりと、本人の意向や体調に合わせて柔軟な対応をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各居室一人部屋であり、生活スペースも確保されゆったりとした生活ができるようになっている。また、常時、声掛け等で個々の体調面・精神面の状態を把握し、柔軟な対応ができるような体制になっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は入居者全員の服薬情報を共有・把握し服薬の際には毎日個人記録のチェック表等に記入し確認を行っている。また、服薬についての相談があれば、その都度併設医師に相談し支持を仰いでいます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各入居者の生活歴や趣味などを把握し、個々の身体状況に応じて役割をお願いしたり、レクなどの活動と一緒にしたりなどの支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出は散歩や外泊することが多い、また利用者から依頼があれば家族の協力等で外出・外泊を行っている。	事業所周围の散歩や、家族の協力で外出、外泊することが多く、今年度は桜や菖蒲の花見を計画している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理簿を作成し、入出金時は事務員と一緒に確認を行った後、記録を行っている。また、入居者が金銭所持を希望した場合は、本人の意思を尊重し、状態を確認したのち、所持を認めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者より、要望等があれば、手紙・電話の支援を可能な限り対応・支援に努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースの食堂にて季節の花飾りや、壁画の飾りつけなどをし、季節を少しでも感じ・楽しめる空間作りを心がけている。また、外から高崎山や由布岳等が見え、四季の彩とりどりに楽しめる。	リビングの壁面には花飾りや入居者の作品などが飾られ、季節を感じられる工夫がなされている。共用空間の窓外には高崎山や由布岳、桜並木が見渡せ、四季折々の景観が楽しめる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースの食堂には、椅子や共同テーブル、テレビ・ソファなどを設置し空間で楽しめるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	元々三階建てのアパートでだったので各居室には洗面台やトイレ、使用できないが浴室があります。入居者の中には実家で使用されていたタンスやテレビなど馴染みのものを持ち込み、少しでも生活できるよう工夫・支援に努めております。	居室の壁面には家族の写真が貼られており、小タンスやテレビ、衣類かけ布団、仏壇(生花が生けられている)など、使い慣れた馴染みのものがあり、それぞれの居室が家庭的で落ち着ける設えになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーになっており、風呂場やトイレなどに手すりや踏み台を設置しております。また、ご意見等あればほかの場所にも手すりなどの介護器具の設置ができるよう体制が整っています。		